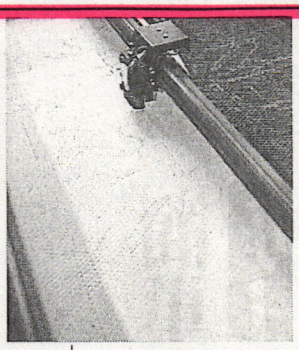
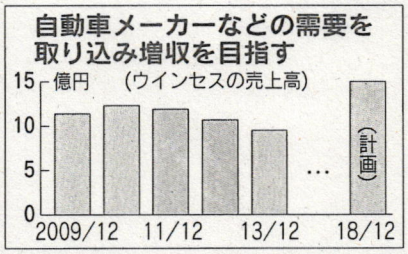
手袋 繊維くず出にくく

ウインセス



手袋メーカーのウインセス（高松市）は、繊維くずが出にくい作業用手袋を開発した。レーザーで裁断し裁断面の樹脂を溶かし固めるため、金型で裁断する従来の製法に比べて断面から繊維くずが出にくくなるという。製造工程で不純物を極力取り除く必要がある自動車や半導体のメーカー向けに売り出し、会社全体の5年後の売上高を、2013年12月期比6割増の15億円に伸ばす。

レーザーで裁断、断面固化
半導体や車工場 開拓



レーザーで裁断することで断面が溶け、繊維くずが出にくくなる（高松市の本社工場）

本社工場（同）に約500万円を投じてレーザー光線で素材を裁断する装置を導入した。工程ではまず、CAD（コンピューターによる設計）で手袋をデザインする。コンピューターと裁断装置はつながっており、手袋の素材となるナイロンやポリエステル、ウレタン織布などをセットすると、レーザーを照射する部位が自動で動いて素材を裁断する。

裁断された素材同士を組み合わせる工程は、熱を当てると接着する性質のあるウレタン織布の素材の場合は、端の部分を上からアイロンのように圧着することで貼り合わせる。ナイロンなどの素材については、手作業で縫い合わせ、製品にする。

従来は手をかたどった金型などで素材を裁断していたが、金型ではレーザーと異なり断面が溶けないため、使用時に断面から繊維のくずが出ることが多かった。

販売先は自動車や半導体メーカーなど。例えば自動車メーカーでは、車体を塗装する際に手袋をはめた手で塗装面に凹凸がないかを確認する必要があるが、手袋から繊維くずが出て車体に付いてしまい、きれいに塗ることができない場合があるという。半導体メーカーでも数マイクロメートルのほこりが品質を大きく左右するため、作業現場から極力不純物を取り除く必要がある。

価格はそれぞれ従来の金型で裁断する手袋に比べて約1割高いが、同社は高品質の製品として需要があるとみている。

同社は1961年の設立で従業員数は25人。生産現場などで使う業務用の手袋が主力製品で、2013年12月期の売上高は約9億5000万円だった。

住宅メーカーの私募債引き受け

香川銀が1億円

香川銀行は三協（香川県観音寺市）の銀行保証付き私募債を引き受ける。

期間は3年間で、発行額は1億円。

同社は香川県や愛媛県で注文住宅建築に取り組むハウスメーカーで、調達資金は運転資金に充てる。

過疎地に宿泊施設

えんがわや徳島・神山町

企業需要に的確に対応 運営会社設立

次世代テレビ向け情報編集などを手掛けるえんがわ（徳島県神山町）と神山町などは古民家を使った企業・団体にも出資を呼び込み、仕事は隣接の共有オフィスを使ってもらう。自然との接触や進出企業との交流から、創造性を高める過疎地オフィスの仕事のやり方を体験できるようにして、企業誘致にもつなげる。

万円の予定。えんがわ以外の過疎地オフィスへの進出企業や町民、町内の

徳島の過疎地で20社目業務開始

三好にデザイン会社

徳島県が企業誘致を進める過疎地オフィス事業で、20社目の進出企業となる新会社「ハレとケデザイン舎」（三好市）が15日から業務を始める。三好市に移住したデザイナーの植本修子氏が起業して設立した。パッケージなどのデザインを手掛けるほか、9月をめどに廃校を活用したカフェ、ショップ、デザイン教室を始める予定だ。

新会社の資本金は100万円。出資比率は植本氏が51%、同氏が勤務していたマーケティング企画会社のテオーリアコミュニケーションズ（東京・港）が49%。徳島の食材を活用した洋菓子や和紙を使ったギフト品などを開発し、廃校跡のショップやインターネット通販で販売する計画だ。

高知の食PRは「アッコにお任せ」

和田アキ子さんの店でフェア

東京・大阪で6月末まで

和田アキ子さん＝写真＝の高知の食を堪能――。

和田さんがプロデュースする「お菜屋　わだ家」はウルメイワシやウツボ、トマトなど高知県の特産品を使った料理を提供する「わだ家流『南国土佐』の旨いもんフェア」を始めた。店舗の担当者が県出身者だったことがきっかけとなり、県の外郭団体の高知県地産外商公社（東京・中央）が食材を紹介したことで実現した。

フェアは東京と大阪にある4店舗で6月末まで開催される。4月は県のブランド牛である「土佐あかうし」のもも肉あぶりやウツボの竜田揚げ、一本釣りで上げたウルメイワシの姿造りなどを提供する。その後も旬の食材を中心にメニューを毎月変更していき、期間中は高知県の地酒も堪能できる。

高知県では「食」をテーマにした観光振興や特産品の県外販売に力を入れており、「高知家の食卓」キャンペーンを展開している。地産外商公社では「知名度の高い和田さんのお店で高知の食材を紹介してもらうことで、地元食材の魅力が広く伝われば」と期待している。

「町民、ある程度理解」

再選の伊方町長　原発再稼働巡り

愛媛県伊方町の山下和彦町長は14日、13日投開票の町長選で再選したことを受け記者会見し、四